

◎幸せな贈り物

巫病 (ふびょう) 脱出 このようにすればよいのです！

巫病 (ふびょう) : シャーマンになる過程において罹患する心身の異常状態のこと

・どうしようもないでしょう 「避けることさえできるならば、避けたいです。でも、どうしようもないでしょう」テレビから流れ出る若い女性のため息が混ざった告白…高等学校を卒業した後から、彼女はとうてい理解できない苦痛に苦しめられた。数えきれないほど病院を訪ねて行ったが、その時ごとに結果は正常だという話を聞くだけだった。しかし、彼女は正常ではなかった。なぜか分からない不安、とうてい一人で活動ができないほど、からだの力が抜けて行った。あちこちをさ迷って、インターネットでもあちこち回ってみたが、シャーマンを訪ねて行きなさいということばの他には接することができなかった。話せない、隠された苦痛、結局、彼女は両親に知らせず家を出てシャーマンを訪ねて行った。シャーマンは、初めて会った人にぞんざいな言葉で命令した。「あなたの病気は霊を受けてこそよくなる巫病だ。霊のりうつらなければならぬ運命だから…」それとともに、その人が持っている鈴の音を彼女の耳元に聞かせながら話しました。「もしかして、この鈴の音がとても良く聞こえるのではないか」彼女は何かに惹かれたように答えた。「なぜか鈴の音を聞いたら良いのはたしかだけれど…」彼女はシャーマンが伝えてくれた現実を受け入れたくなかった。言葉なく背を向けた彼女は家に戻って苦痛に苦しめられながら、悩みを繰り返したあげく、両親に告白した。「霊にのりうつられてこそよくなる巫病です。どうしようもないでしょう」霊を受けなければ、より大きい苦痛にあうことというシャーマンの話を伝えながら彼女は泣いた。その涙の前に、両親は話す言葉を失った。何日か後、彼女は新しいお母さんと呼ばれるシャーマンに従って、霊にのりうつられる儀式を受けた。突然、おじいさんの声を出して、幼い赤ん坊の声を出しながら、おじいさんの霊と童子の霊が訪ねてきたと言った。のりうつられる儀式は終わった。そして、同時に彼女の両親と男の友だちとも離れた。彼女はこのように話した。「避けることさえできるならば避けたいです。でも、どうしようもないでしょう」

韓国の最初の女子高生の化粧品モデルと〈若さの行進〉MCを経て80年代最高のハイティーンスターとして活躍した芸能人パク・ミリョンさんも、有名歌手と結婚して芸能界を引退して、妻として幸せな生活を送っていたときに、突然訪ねてきた巫病で自殺まで試みた。長い間、自分を苦しめていた原因が巫病だという事実を知っても認めたくなかったパク・ミリョンは、極度に激しいうつ病に苦しめられて、正常な夫婦生活はもちろん、家族と近い知人からも離れるようになった。避けることさえできるならば避けたい



マンの生活だったが、のりうつられなければ、自分の息子に巫病が相続されるという鳥肌が立つように怖い事実のために、パク・ミリオンはのりうつられる儀式を受けた。

ある伝道団体で500軒を越えるシャーマンの家を訪ねて行って、100人に質問用紙を書いてもらうことができた。質問の結果、シャーマンになった時期は20歳以下から50歳まで多様だったが、30~40歳のときにシャーマンになった人が最も多かった。シャーマンになった動機を調べたところ、からだが病気になる、のりうつられる儀式をしてなった人が最も多くて、霊的な事で苦しめられて突然、悪霊が臨んだり、親から受け継いだ場合が後に続いた。シャーマンになった後、幸せかという質問には30%が幸せだと言ったが、70%は幸せでなかったり、返事を避けた。60%近くは悪霊が目に見えると聞いた。そして、自分が仕えている霊より強い他の霊にいじめられる場合もあると言った。あなたの子孫がシャーマンになることを望むかという質問には、9人だけが願うと言っただけで、残りの人は絶対に願わないと答えた。そして、たとえ今、シャーマンの生活をしているけれど、80%を越えるシャーマンが、抜け出したいが方法がなかったり、運命だと言った。はたして、道はないのだろうか。

・**巫病脱出** 自分も知らない間に人間の運命を左右して、のろいと災いをもたらす暗やみの勢力があると考えてみたことはないだろうか。シャーマンは、確かに悪霊は存在すると確信している。ところが、自分の運命は解決しなくて、家庭は破壊されていることが分かる。いったい人間を不幸にするその実体は何だろうか。

聖書は、その名をサタン、あるいは悪魔、その手下を悪霊だと明らかにしている。創世記3章を見れば、目に見えないサタンは、目に見える蛇を利用して、はじめから巧妙な嘘で人間をだまして、神様から離れるようにさせた。その結果、人間のたましいは、サタンの支配を受けて、苦難と失敗の中に、願ってもいない苦痛と分からない問題にからまれながら人生を生きるようになったのだ。いったいサタンはどんな存在で、どこから来たのだろうか。ヨハネの黙示録12章9~12節を見れば、天から落ちた御使

い、墮落した御使いだと話している。エゼキエル書28章13~17節に、天国で音楽を担当していた御使いが高ぶるようになり、神様に敵対して墮落して追い出されるようになったのだ。テコンドー8段が墮落しても、その力は残っているように、御使いの力を持って追い出されたサタンは、人間に現れて人生と家庭を壊し、社会と人間関係を壊して、墮落経済を作って暗やみ文化を作っている。特に神様を知らないようにさせて、神様と遠ざかるように事を計画する。サタンはいつでも巧妙に神様ではない他の偶像に仕えるようにさせる。そして、おかしな宗教を作って無駄でむなしい人生を生きるようにさせる。文化と音楽という名目で快樂を与えるふりをしながら、まことの幸せを奪っていったり、暗やみの組織を作ってたましいを荒廃させ、地獄に入る時まで人間を困らせる。聖書は、このサタンが偽りの父で、滅ぼす者だと確かに明らかにしている。

このサタンの働きに勝つ道はないのだろうか。聖書は、はじめからこの事実を明らかにしている。神様は、私たちが人間の本分を見出すことを願って、祝福することを願っておられる。神様とともにいながら、その祝福を味わうのが人間の本来の身分だ。魚が水の中にいれば、その他のことがみな解決されるように、人間は神様とともにいれば、ほかのすべてのことが解決するようになる。それで、神様はあなたを救うために、自ら被造物である人間の姿で来られて十字架で死に復活されて、人間の敵であるサタンの権威を打ちこわして、人間のすべての罪とのろいを解決して神様に会えるように道を開いてくださった。この方がまさにキリストであるイエス様だ。

だれでもイエス・キリストを信じるとき、神様の子どもになって、すべての苦痛とサタンの手から完全に解放されるようになる。そして、イエス・キリストを信じる者に、サタンの力を制御する権威、悪霊を追い出す権威をくださると約束された。神様は、今でもあなたを愛しておられ、すべてののろいから抜け出す祝福の主人公になるように待っておられる。それで、巫病もイエス・キリストを信じれば完全に終わらせることができるのだ。**「主イエス様を信じれば救われます。あなたは大切な人です」**

幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け」と言った。すると即座に、霊は出て行った。(使徒の働き16:18)

この地に 義人はいますか？

姦淫の現場で捕まったある女性の周囲には、石を持った数多くの人が囲んでいました。彼らはこのように叫びました。「モーセの律法には、このような女は石で打ちなさい命じていますが、先生はどのように言われるのですか」しかし、その言葉は聞いた若い先生は、何も言わず、指で地面に何かを書いているだけでした。彼らの殺気に満ちた要求はより一層激しくなって、そのときになって、はじめて若い先生は立ちあがってこのように話しました。「あなたたちの中で罪がない者が先に石で打ちなさい」この話を聞いた人々はどうなったでしょうか。時間が過ぎた後、その若い先生は女性に尋ねました。「あなたを告発して、あなたを罪に定めた人々はどこにいるのか」はじめて女が口を開きました。「主よ、いません！」その若い先生が答えます。「わたしもあなたを罪に定めません。行きなさい。再び罪を犯してはなりません」聖書に出てくる姦淫の現場で捕まった女性とイエス様の対話です。

はたして、この世に罪がない人がいるのでしょうか。聖書はこのように語っています。「義人はいない。ひとりもない」(ローマ3:10)「すすべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」(ローマ3:23)そして、その結果は死だと言われました(ローマ6:23)。罪を犯して罪人になったのではなく、罪人だから人間は根本的に罪を犯すしかないということです。いったい、なぜこのようになったのでしょうか。聖書は人間にある3つの罪を知らせています。そして、それが人間の不幸の根本原因であることを明らかにしています。一つ目、原罪です。原罪とは、私たちが犯した罪ではなく、アダムとエバが罪を犯した後から伝えられてくる罪を言います。たとえば、過去に奴隷の家に子どもが生まれれば、当然、奴隷になったように。原罪は、神様を離れた罪で、永遠にのろいを受けるしかない罪で、私も知らない間にサタンという霊的暗やみ存在に捕われて、その影響を受けるしかない怖い罪です。それで、原罪に陥った人間は、サタンの働きでのろいを受けるようになって、偶像崇拜、先祖供養、お守り、お祓い、占い、迷信、雑神、宗教などに陥って、苦難を受けて子孫三、四代までのろいの遺産を伝える霊的な相続を残すようになります。二つ目、自分が犯す罪です。原罪の結果で人間に訪ねてきた罪性と貪欲によって犯すようになる生活の中の罪です。三つ目、先祖の罪です。家系に流れてきた偶像崇拜によって、子孫に繰り返すのろいと災いが現れる罪を言います。聖書は他の方法では、とうていこのような人間の罪の問題を解決できないので、断固たる解決策を提示しています。「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ5:8) この地に義人はひとりもいませんが、キリスト・イエスの中では、すべての人が義人です。

こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

(ローマ人への手紙8:1-2)

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放して下さったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

応急救いセンター



普通の人が正常な生活を送っていても、ある日、時には予期できない事件と事故が起きて当惑した環境に処することがあるのだが、まさにそんなことが私の周囲で起きた。夕方の集いを終えて帰宅する方が行く方向が同じなので、妻が何人かの人を連れてあげた。家の近所でおりにる時になって、道端に停車しておりにる姿勢を取ったのと同時に、そこにうしろの車が追突した。事故を起こした車は、携帯で電話をしていて、前の車との安全の確保と注意義務を疎かにした結果であった。妻の乗用車の左側バンパーが破損して、運転席と助手席の人は大丈夫だったが、後ろの席の母娘は負傷したのか身動きできなかった。おりにる姿勢をとろうとした瞬間にぶつかった衝撃で、からだに異常がきたのが明らかだった。事故を起こした運転手と、被害者も両方とも女性運転手であり、どのようにその状況を收拾したら良いのかわからず、混乱していた。こういう状況連絡を受けて、近かったので現場に急いで走って行って、まずケガ人の手当てのために先に救急車を呼んだ。同時に警察に事故の報告をしたが、事故を起こした人は、友人の車を借りて乗って出てきた状態だったので、状況説明が右往左往した。事故を起こした人は警察に行って、その間にやってきた救急車が現場で簡単に応急措置をしたあと、総合病院救急医療センターEmergency Medical Centerに走って行った。病院の救急室には、すでに40人あまりの患者が苦痛を訴えながら点滴をぶら下げていて、医療スタッフはずっと忙しく病床を行き来しながら症状を確認していた。酒場でけんかをしたのか、服に血をつけて頭を包帯で縛っている人と老人の苦しそうな姿と、子どもの悲しい泣き声がやみが深い夜の時間にママの背中で苦しそうにしていた。心配している保護者がかわいそうに思い

ながら見つめている目と苦しい姿の患者の間で、それでも安心なのは、このような応急医療体系があった。遅い時間でも治療を受けられるということだった。もし、このような応急体系が霊的な現場にもあるなら、どれほど良いかと考えてみる。病院では、苦痛を受ける人の症状を治療することはできるだろうが、その苦痛の本質である神様を離れた問題と罪によるのろいとサタンにだまされて縛られてしまった運命、生年月日による運勢は解決できない。人々は方法を探すが、イエス様はご自分が道だと言われる。どんな宗教や哲学でも発見することができない神様に会う道なので預言者と言われて、どんな労苦と功労でも解決できない罪を十字架の血であがなってくださいだったので祭司だと言われ、人間の失敗の原因になるサタンのしわざを打ちこわされたので王だと言われるその方が、まさにキリストだ。その正確な奥義を持った人が案内する所がまさに応急救いセンターだ。そこには看板もなく、救急車もないが、福音を待つ人を一寸のまちがいのもなく、はっきりと救いの道に案内する。人々はだれでも、昨日もいつものように過ごしたので、平然と今日一日の生活を送って明日の計画をたてる。ち密で正確な時計の歯車のように、私たちの一生もそうだとじっと見るが、ある日、その明らかな歯車が止まるようになって、その細かい歯が方向を失うとき、普通の人的人生はめちゃくちゃになる。しかし、応急救いセンターの価値を知っている人は、その問題がかえって自分のいのちと世の中を生かす道になることを知ようになる。苦しいならば苦しいだと話してこそ、生きる道が見られる。見えないが明らかな滅びの道なので、今日も救急車は苦しんでいる者に向かってあかりを照らしながら走っていく。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ